

- by a chimpanzee. *Nature*, 315: 57-59.
- 3) Matsuzawa, T. (1985): Colour naming and classification in a chimpanzee (*Pan troglodytes*). *J. Hum. Evol.*, 14: 238-291.
  - 4) 松沢哲郎・木田光郎・古賀一男 (1985): ヒマラヤ 8000 m における精神機能 — ハンドヘルドコンピューターを用いた精神作業検査。名古屋大学環境医学研究所年報, 36, 238-248.
  - 5) Fujita, K. (1985): Effects of ratio reinforcement schedules on discrimination performance by Japanese monkeys. *J. Exp. Anal. Behav.*, 43 (2): 225-234.
  - 6) 藤田和生・樋口義治 (1985): A 研究所における欧文ワードプロセッサ使用行動の普及過程。心理学研究, 56 (1): 48-51.
  - 7) 松沢哲郎 (1985): チンパンジーの色の測定。第 8 回神経科学学術集会, 予稿集, 53.
  - 8) 熊崎清則・松沢哲郎・松林清明: ビデオセンサーを用いたチンパンジー分娩予知システム。第28回プリマーテス研究会 (1984), 抄録 2。
  - 9) 藤田和生・松沢哲郎: チンパンジーの認知世界 — 感覚性強化による検討 —。日本心理学会第48回大会 (1984), 予稿集, 318。
  - 10) 竹下秀子・田中昌人・松沢哲郎: オランウータン乳児の姿勢および知覚運動機能の発達 — チンパンジー, ヒト乳児との比較 —。第29回プリマーテス研究会 (1985), 抄録, 19.
  - 11) 藤田和生: ニホンザルの Observing Behavior (2) — 窓あけ方式を用いて —。日本動物心理学会第44回大会 (1984), 動心年報, 34, 44.

#### 報告・その他

- 1) 杉山幸丸・松沢哲郎 (1984): チンパンジーは語る。望星, 15 (4), 36-51.
- 2) 松沢哲郎 (訳) (1985): 社会生物学。(E. O. ウイルソン著, 伊藤嘉昭監修), 思索社, 第5巻。

#### 学会発表

- 1) 室伏靖子・本吉良治・山田恒夫・板倉昭二: チンパンジーにおける数のマッチング。日本動物心理学会第44回大会 (1984), 動心年報, 34, 42.
- 2) 浅野俊夫・吉久保真一: チンパンジーをもちいた異種見本合せ手続きによる刺激等価の形成の試み。日本動物心理学会第44回大会 (1984), 動心年報, 34, 44.
- 3) 浅野俊夫・吉久保真一: チンパンジーにおけるアルファベット文字の認知。日本心理学会第48回大会 (1984), 予稿集, 319.
- 4) 小嶋祥三: 人工飼育チンパンジーの出生直後からの発声について。日本動物心理学会第44回大会 (1984), 動心年報, 34, 31.
- 5) 小嶋祥三: 前頭前野と短期記憶。日本神経心理学会総会 (1984), 予稿集, 23.
- 6) 小嶋祥三: 人工飼育チンパンジー乳幼児の音声の発達と可塑性。日本心理学会第48回大会 (1984), 予稿集, 277.
- 7) 小嶋祥三 (1984): チンパンジーの音の大き

#### 社会研究部門

川村俊蔵・鈴木 晃・小山直樹・森 梅代<sup>1)</sup>

#### 研究概要

- 1) スマトラにおける 2 種の霊長類の研究

川村俊蔵・大井 徹<sup>2)</sup>

スマトラ自然研究計画・第 5 年次計画の一環として, 川村は 2 度インドネシアに赴き, 一回目にはインドネシア側研究者の指導を行うかたわら, クロカンムリヤセザルの社会・生態・分布の研究を続行し, 二回目には大井とともに, これまで世界的に研究の遅れているブタオザルの長期研究を開始した。

- 2) インドネシア・カリマンタンにおけるオランウータンの社会行動と社会構造に関する研究

鈴木 晃

カリマンタン・クタイ保護区に生息するオランウータンの観察を行った。30頭のオランウータンの森林内での付置構造を記録し, 社会構造に関する討論を行った。

- 3) カニクイザルの比較社会学的研究

小山直樹

1984年8月27日から1985年1月5日まで, スマトラのグヌメル山においてカニクイザルの

- 1) 教務職員, 2) 大学院生, 3) 研修員

社会行動を観察した。今回の調査で、カニクイザルが通年繁殖する種であることがはっきりしたが、特に発達の観点にたつてさまざまな行動の比較研究を行った。

4) ニホンザルの地域個体群の動態と群れのスペーシングに関する研究

鈴木 晃

上信越ニホンザル研究林、房総半島において、ニホンザルの地域個体群の土地利用、個体群動態、遊動におけるスペーシングの問題、オスの群れの離脱等に関する調査を継続しておこなっている。

5) ニホンザルのメスの繁殖成功度と個体歴

小山直樹

嵐山群の出産データの解析から、出産歴と初産年齢とは、翌年の出産時期の早遅に影響を及ぼしているという傾向が見られた。また優位のメスが劣位のメスより繁殖上有利かどうかの検討を行ったが、一定の規則性を見出すことは難しく、むしろ出産率の高低には、母親の年齢という要素が強く働いていることをうかがわせる結果であった。

6) ニホンザルの社会的発達に関する研究

森 梅代

幸島群を対象に、遊び、子守り行動、grooming行動等を中心に分析を進め、ニホンザルメスの社会関係の発達を明らかにしようとしている。

7) 類人猿の社会構造に関する比較研究

鈴木 晃

従来行ってきたアフリカに於ける野生チンパンジーの社会と今回観察したオランウータンの社会とから、テナガザル、ゴリラを含めた類人猿の社会構造に関する比較検討を行っている。

8) ニホンザル野外観察施設への協力

川村俊蔵・鈴木 晃・泉山茂之<sup>3)</sup>

従来からの継続として、川村・泉山は木曾研究林、鈴木は上信越研究林において社会学の立場から研究を行うとともに、両研究林の維持管理に関して協力を行った。

論 文

- 1) Mori, U. and R. I. M. Dunbar (1985): Changes in the reproductive condition of female gelada baboons following the takeover of one-male units. *Z. Tierpsychol.*, 67: 215-224.

報告・その他

- 1) Kawamura, S. (1984): Distribution and vocalization of *Presbytis melalophos* and *P. femoralis* in westcentral Sumatra—a summarized report—Kyoto University Overseas Research Report of Studies on Asian Non-Human Primates, 3: 37-44.
- 2) 鈴木 晃 (1984): 東カリマンタンのオランウータンの野生生活。モンキー, 28(1): 6-17.
- 3) 鈴木 晃 (1984): 孤独な森の住人。サンデー毎日, 63(50): 1-3.
- 4) Suzuki, A. (1984): The distribution of primates and the survey on the affection of forest fires, 1983, in and around Kutai Nature Reserve of east Kalimantan, Indonesia. Kyoto University Overseas Research Report of Studies on Asian Non-Human Primates, 3: 55-65.
- 5) Suzuki, A. (1984): The socio-ecological study on Orangutans in Kutai Nature Reserve of east Kalimantan, Indonesia. Kyoto University Overseas Research Report of Studies on Asian Non-Human Primates, 3: 67-76.
- 6) Azuma, S., Suzuki, A. and Y. Ruhayat (1984): The distribution of primates in Sebulu and R. Mahakan. Kyoto University Overseas Research Report of Studies on Asian Non-Human Primates, 3: 45-54.
- 7) 小山直樹 (1984): 嵐山ニホンザル個体群の推移。嵐山自然史研究所報告第3号「嵐山のニホンザル」, pp. 30-38.
- 8) 小山直樹・乗越皓司 (1984): 嵐山ウエストのニホンザル。嵐山自然史研究所報告第3号「嵐山のニホンザル」, pp. 60-70.
- 9) Koyama, N. (1984): Socio-ecological study of the crab-eating monkeys at Gunung Meru, Indonesia. Kyoto University Overseas Research Report of Studies on Asian Non-Human Primates, 3: 17-36.

## 学会発表

- 1) 鈴木 兎：東カリマンタン・クタイ保護区のオランウータンの社会・生態学的研究。第38回日本人類学会（1984）。
- 2) 川村俊藏：スマトラにおける *Presbytis melalophos* ならびに類縁種の社会行動上の分化。第29回プリマーテス研究会（1985）。
- 3) 鈴木 兎：東カリマンタンのオランウータンの生活と行動。第29回プリマーテス研究会（1985）。
- 4) 小山直樹：インドネシア・グヌンメル山におけるカニクイザルの社会行動。第29回プリマーテス研究会（1985）。
- 5) 小山直樹：スマトラにおけるカニクイザルの社会行動。第32回日本生態学会（1985）。
- 6) 小山直樹：ザイル、イランギの森に生息するホオジロマンガベイの社会生態学的研究。第21回日本アフリカ学会学術大会（1984）。

## 変異研究部門

野澤 謙・庄武孝義・和田一雄・峰澤 満

### 研究概要

#### 1) ニホンザルの集団遺伝学的研究

野澤 謙・庄武孝義・川本 芳<sup>1)</sup>

ニホンザルの血液蛋白の構造を支配する遺伝子の変異を電気泳動法によって検索し、群内、群間の変異性を定量化する。59年度には青森県下北の群を追加し、現在までにニホンザル44群、総個体数約2,600頭の血液試料について、35種の蛋白の構造を支配する計38遺伝子座の検索を行ってきた。このデータをもとにして、統計的検討を加え、繁殖単位間の毎代の移出入率、遺伝的変異の散布範囲などについて定量的推定を行い、ニホンザルの繁殖構造を解明すべく作業を続行中である。

#### 2) *Macaca* 属サルを系統的相互関係

野澤 謙・庄武孝義・川本 芳

ニホンザルを含む *Macaca* 属サル各種から採血を行い、前項1)と同一の方法によって種内・種間の遺伝学的変異性を定量化し、それら種間の遺伝子構成上の差を遺伝距離で表現し、それに数量分類学的手法を適用して枝分れ図を描く。それによ

り種間の近縁関係、分化時間の推定等を行う作業を目下続行中である。59年度には海外調査によりトクモンキー、ボンネットモンキー、シシオザル、5種のセレベスモンキーの試料を収集した。

#### 3) ニホンザルの先天的四肢奇形への遺伝的アプローチ

野澤 謙・峰澤 満

ニホンザルの数多くの餌付け群に多発する先天的四肢奇形が遺伝的支配を受けているか否かを明らかにすべく研究が続行されている。集団の奇形出現の家族集積性のデータから統計遺伝学的手法を用いて遺伝率の推定を行う他、細胞遺伝学的手法を用いて奇形出現と染色体異常との関連の有無を明らかにする作業を行っている。交配実験は淡路島野猿公園の協力を得て現地で行っている他、日本モンキーセンターとの共同研究として宮島から入れた奇形ザルを用いて本研究所においても続行している。

#### 4) 家畜化現象と家畜系統の研究

野澤 謙・庄武孝義

在来諸家畜とそれらの野生原種の遺伝的野外調査によって、家畜化現象そのものの集団遺伝学的解明と、個々の家畜内で地域集団間の遺伝的分化の程度、系統的相互関係の解明を行いつつある。59年度にはスリランカと南インドで試料を収集し分析中である。

#### 5) ヒヒ類の種分化に関する遺伝学的研究

庄武孝義・野澤 謙

58年度の海外特別事業費によりエチオピアにて純粋マントヒヒとアヌビスヒヒの試料が得られたので、これら2種の正確な遺伝距離を推定中である。

#### 6) ニホンザルの細胞遺伝学的研究

峰澤 満

ニホンザルの標準核型に基づきニホンザルの各地の集団の染色体の変異性を把握しようとしている。

#### 7) 新世界ザルの遺伝学的研究

峰澤 満

59年度ポリビアの調査を行い血液サンプルを収集した。これらサンプルについて染色体の変異と血液蛋白を支配する遺伝子の変異の検索を行っている。

#### 8) キヌザル科のキメラ動物の遺伝学的研究

峰澤 満

キヌザルにみられる血液および生殖細胞のキメラの遺伝学的特性の解明を行いつつある。

### 1) 研修員